

特集

地域に開かれた施設として 子どもの健全育成と 課題解決をめざす

●徳力南児童館【福岡県北九州市】

<http://www.kitaa-jidoukan.jp/tokurikiminami/>

クリスマスには、高校生サンタクロースが子どもたちにプレゼント

北九州市小倉南区の「徳力南児童館」は、昭和57年8月に同対策事業として、隣保館に併設された「徳力児童センター」が母体となっている。

開設のきっかけは、地域のなかで子どもを持つ親たちが、「地域周辺の子もたちの健全育成を図り人権を守るために、子どもや親の交流する場所がほしい」と、市に働きかけたことである。

北九州市には現在、市内に42か所の児童館があり、そのすべてが市の委託を受けた社会福祉法人北九州市福祉事業団によって運営されている。

子どもの成長を支え合う拠点として

「徳力南児童館」では現在、日曜日・祝日を除く9時30分から17時30分（土曜日は17時まで）を、子どもたちを中心とした交流の場として施設を提供している。そして、子どもの成長を地域で支え合う拠点として、さまざまな取り組みを行っており、多い日には、小中高合わせて70～80人もの子どもたちが集まってくる。

毎月第1・第3水曜日の10時から12時には、子育てスペース「すくすくランド」の名のもとで、就学前の子どもとその保護者を対象に、児童館の一面をフリースペースとして開放している。この活動は、子どもたちが遊びやすい空間をつくるとともに、保護者同士の語らいの場ともなっている。

また、子どもたちにできるだけ多くの体験をさせたいとの思いから、毎月1回必ず行われているイベントが「レッツトライ」である。ここでは、地元中学校の理科の教員による「おもしろ実験教室」や、高校の教員を講師に招いての「点字の学習」、在日韓国人による「韓国の文化と遊び」、地域住民の指導による「地域伝統のうどん作り」など、さまざまな立場の人がかかわりながら「学び」と「遊び」を取り入れたプログラムが実施されている。



月1回の体験講座「レッツトライ」で、伝統のうどんづくりに挑戦

さらに、学力の気になる子どもを対象として閉館後の時間帯に行われる「学びの広場」や、「夏の質問教室」などを行い、子どもたちの家庭学習の支援を行っている。特に、子どもたち

の学習のつまずきには、地域の小・中学校と連携し、早期解決を図るようにしている。

こうした取り組みについては、児童館の運営スタッフが中心となり、地域の関係機関や学校関係者を含めた定期的な連絡会で、情報交換をしながらすすめている。

具体的な活動の実施にも、地域の保護者や教員たちがボランティアとして積極的に参加し、子どもたちとの関係をより密接なものとする効果を生んでいる。

課題を抱えている子どもたちへの支援

「徳力南児童館」ではもう一つ、重要な取り組みとして、子どもの健全育成をめぐる生活相談窓口の役割を担っている。

例えば、何らかの事情によって、それまでの家族関係が崩壊し、人権が損なわれる危機に直面している子どもたちや、経済的な困窮ゆえに通常の教育が受けられず、学力低下を招いている子どもたちなど、生活環境や心的状況に課題を抱えている子どもたちへの支援である。

同館では、日常の活動をおとして子どもたちの状態を注意深く観察していくなかで、そうした課題を見つけた場合には、早期解決の手段を探る。そして、問題の深刻度に応じて地域内の各学校や、市の専門機関などとの連携を図りながら対応している。

そこには、子どもたちの課題を共有し、それぞれの事情に応じた細やかな配慮が大切にされており、職員は時にはケースワーカーとしての役割も担う。

また、子どもたちにとってのよりよい環境づくりのためには、地域のさまざまな人や機関とつながることの必要性も強く感じている。

そうした意味においても、「徳力南児童館」では、地域に開かれた施設としての重要性を自覚しつつ、今後も、子どもたちを中心とした円滑な家族関係や、地域の「ふれあいの芽」を育てるため、できるだけ多くの保護者の参画を促し、児童館を核とした地域住民のネットワークづくりをめざしていきたいと考えている。

野外活動では、みんなで地域の観光名所を訪れる

ながることで、問題の予防や課題解決につながることもあります。

一方、学校の教員たちからも、児童館があることによって保護者との関係もうまく保つことができるとの評価をいただけており、児童館が地域にとって必要な場でありたいと願っている私たちにとっては、とてもうれしい反響です。

課題を抱えている子どもは、年々増加しているように感じます。小学2年生で、死にたいと漏らす子どももいます。こうした子どもたちの人権を守るためにも、児童館が保護者や教員、専門職の方々のパイプ役になることが求められています。

子どもたちを中心とした地域住民にとっての、「安らげる居場所」としての役割はもちろんですが、子どもにかかわる地域課題の解決を図っていくことは、児童館が地域に開かれた施設として機能することを標榜していることから、大事な役割です。

「地域の再生」のために、 さまざまな「つながりづくり」をめざして

やましたさとみ
山下里美さん
徳力南児童館 児童厚生員

私たちが児童館を運営していくなかで、利用者からは「困った時は児童館に行けば、何らかの解決策が見つかるので、とても助かる」との声をよく聞きます。

行政などの公の相談機関に行くほどのことではなくても、保護者の方が、気楽な気持ちで児童館に来ることによって出会いが生まれ、ちょっとした会話や相談をきっかけとして、学校や他の機関へつ

特集

地域に開かれた施設として 子どもの健全育成と 課題解決をめざす

●徳力南児童館【福岡県北九州市】

<http://www.kitaa-jidoukan.jp/tokurikiminami/>

クリスマスには、高校生サンタクロースが子どもたちにプレゼント

北九州市小倉南区の「徳力南児童館」は、昭和57年8月に同対策事業として、隣保館に併設された「徳力児童センター」が母体となっている。

開設のきっかけは、地域のなかで子どもを持つ親たちが、「地域周辺の子もたちの健全育成を図り人権を守るために、子どもや親の交流する場所がほしい」と、市に働きかけたことである。

北九州市には現在、市内に42か所の児童館があり、そのすべてが市の委託を受けた社会福祉法人北九州市福祉事業団によって運営されている。

子どもの成長を支え合う拠点として

「徳力南児童館」では現在、日曜日・祝日を除く9時30分から17時30分（土曜日は17時まで）を、子どもたちを中心とした交流の場として施設を提供している。そして、子どもの成長を地域で支え合う拠点として、さまざまな取り組みを行っており、多い日には、小中高合わせて70～80人もの子どもたちが集まってくる。

毎月第1・第3水曜日の10時から12時には、子育てスペース「すくすくランド」の名のもとで、就学前の子どもとその保護者を対象に、児童館の一面をフリースペースとして開放している。この活動は、子どもたちが遊びやすい空間をつくるとともに、保護者同士の語らいの場ともなっている。

また、子どもたちにできるだけ多くの体験をさせたいとの思いから、毎月1回必ず行われているイベントが「レッツトライ」である。ここでは、地元中学校の理科の教員による「おもしろ実験教室」や、高校の教員を講師に招いての「点字の学習」、在日韓国人による「韓国の文化と遊び」、地域住民の指導による「地域伝統のうどん作り」など、さまざまな立場の人がかかわりながら「学び」と「遊び」を取り入れたプログラムが実施されている。



月1回の体験講座「レッツトライ」で、伝統のうどんづくりに挑戦

さらに、学力の気になる子どもを対象として閉館後の時間帯に行われる「学びの広場」や、「夏の質問教室」などを行い、子どもたちの家庭学習の支援を行っている。特に、子どもたち

の学習のつまずきには、地域の小・中学校と連携し、早期解決を図るようにしている。

こうした取り組みについては、児童館の運営スタッフが中心となり、地域の関係機関や学校関係者を含めた定期的な連絡会で、情報交換をしながらすすめている。

具体的な活動の実施にも、地域の保護者や教員たちがボランティアとして積極的に参加し、子どもたちとの関係をより密接なものとする効果を生んでいる。

課題を抱えている子どもたちへの支援

「徳力南児童館」ではもう一つ、重要な取り組みとして、子どもの健全育成をめぐる生活相談窓口の役割を担っている。

例えば、何らかの事情によって、それまでの家族関係が崩壊し、人権が損なわれる危機に直面している子どもたちや、経済的な困窮ゆえに通常の教育が受けられず、学力低下を招いている子どもたちなど、生活環境や心的状況に課題を抱えている子どもたちへの支援である。

同館では、日常の活動をおとして子どもたちの状態を注意深く観察していくなかで、そうした課題を見つけた場合には、早期解決の手段を探る。そして、問題の深刻度に応じて地域内の各学校や、市の専門機関などとの連携を図りながら対応している。

そこには、子どもたちの課題を共有し、それぞれの事情に応じた細やかな配慮が大切にされており、職員は時にはケースワーカーとしての役割も担う。

また、子どもたちにとってのよりよい環境づくりのためには、地域のさまざまな人や機関とつながることの必要性も強く感じている。

そうした意味においても、「徳力南児童館」では、地域に開かれた施設としての重要性を自覚しつつ、今後も、子どもたちを中心とした円滑な家族関係や、地域の「ふれあいの芽」を育てるため、できるだけ多くの保護者の参画を促し、児童館を核とした地域住民のネットワークづくりをめざしていきたいと考えている。

野外活動では、みんなで地域の観光名所を訪れる

ながることで、問題の予防や課題解決につながることもあります。

一方、学校の教員たちからも、児童館があることによって保護者との関係もうまく保つことができるとの評価をいただけており、児童館が地域にとって必要な場でありたいと願っている私たちにとっては、とてもうれしい反響です。

課題を抱えている子どもは、年々増加しているように感じます。小学2年生で、死にたいと漏らす子どももいます。こうした子どもたちの人権を守るためにも、児童館が保護者や教員、専門職の方々のパイプ役になることが求められています。

子どもたちを中心とした地域住民にとっての、「安らげる居場所」としての役割はもちろんですが、子どもにかかわる地域課題の解決を図っていくことは、児童館が地域に開かれた施設として機能することを標榜していることから、大事な役割です。

「地域の再生」のために、 さまざまな「つながりづくり」をめざして

やましたさとみ
山下里美さん
徳力南児童館 児童厚生員

私たちが児童館を運営していくなかで、利用者からは「困った時は児童館に行けば、何らかの解決策が見つかるので、とても助かる」との声をよく聞きます。

行政などの公の相談機関に行くほどのことではなくても、保護者の方が、気楽な気持ちで児童館に来ることによって出会いが生まれ、ちょっとした会話や相談をきっかけとして、学校や他の機関へつ

特集

地域に開かれた施設として 子どもの健全育成と 課題解決をめざす

●徳力南児童館【福岡県北九州市】

<http://www.kitaa-jidoukan.jp/tokurikiminami/>

クリスマスには、高校生サンタクロースが子どもたちにプレゼント

北九州市小倉南区の「徳力南児童館」は、昭和57年8月に同対策事業として、隣保館に併設された「徳力児童センター」が母体となっている。

開設のきっかけは、地域のなかで子どもを持つ親たちが、「地域周辺の子もたちの健全育成を図り人権を守るために、子どもや親の交流する場所がほしい」と、市に働きかけたことである。

北九州市には現在、市内に42か所の児童館があり、そのすべてが市の委託を受けた社会福祉法人北九州市福祉事業団によって運営されている。

子どもの成長を支え合う拠点として

「徳力南児童館」では現在、日曜日・祝日を除く9時30分から17時30分（土曜日は17時まで）を、子どもたちを中心とした交流の場として施設を提供している。そして、子どもの成長を地域で支え合う拠点として、さまざまな取り組みを行っており、多い日には、小中高合わせて70～80人もの子どもたちが集まってくる。

毎月第1・第3水曜日の10時から12時には、子育てスペース「すくすくランド」の名のもとで、就学前の子どもとその保護者を対象に、児童館の一面をフリースペースとして開放している。この活動は、子どもたちが遊びやすい空間をつくるとともに、保護者同士の語らいの場ともなっている。

また、子どもたちにできるだけ多くの体験をさせたいとの思いから、毎月1回必ず行われているイベントが「レッツトライ」である。ここでは、地元中学校の理科の教員による「おもしろ実験教室」や、高校の教員を講師に招いての「点字の学習」、在日韓国人による「韓国の文化と遊び」、地域住民の指導による「地域伝統のうどん作り」など、さまざまな立場の人がかかわりながら「学び」と「遊び」を取り入れたプログラムが実施されている。



月1回の体験講座「レッツトライ」で、伝統のうどんづくりに挑戦

さらに、学力の気になる子どもを対象として閉館後の時間帯に行われる「学びの広場」や、「夏の質問教室」などを行い、子どもたちの家庭学習の支援を行っている。特に、子どもたち

の学習のつまずきには、地域の小・中学校と連携し、早期解決を図るようにしている。

こうした取り組みについては、児童館の運営スタッフが中心となり、地域の関係機関や学校関係者を含めた定期的な連絡会で、情報交換をしながらすすめている。

具体的な活動の実施にも、地域の保護者や教員たちがボランティアとして積極的に参加し、子どもたちとの関係をより密接なものとする効果を生んでいる。

課題を抱えている子どもたちへの支援

「徳力南児童館」ではもう一つ、重要な取り組みとして、子どもの健全育成をめぐる生活相談窓口の役割を担っている。

例えば、何らかの事情によって、それまでの家族関係が崩壊し、人権が損なわれる危機に直面している子どもたちや、経済的な困窮ゆえに通常の教育が受けられず、学力低下を招いている子どもたちなど、生活環境や心的状況に課題を抱えている子どもたちへの支援である。

同館では、日常の活動をおとして子どもたちの状態を注意深く観察していくなかで、そうした課題を見つけた場合には、早期解決の手段を探る。そして、問題の深刻度に応じて地域内の各学校や、市の専門機関などとの連携を図りながら対応している。

そこには、子どもたちの課題を共有し、それぞれの事情に応じた細やかな配慮が大切にされており、職員は時にはケースワーカーとしての役割も担う。

また、子どもたちにとってのよりよい環境づくりのためには、地域のさまざまな人や機関とつながることの必要性も強く感じている。

そうした意味においても、「徳力南児童館」では、地域に開かれた施設としての重要性を自覚しつつ、今後も、子どもたちを中心とした円滑な家族関係や、地域の「ふれあいの芽」を育てるため、できるだけ多くの保護者の参画を促し、児童館を核とした地域住民のネットワークづくりをめざしていきたいと考えている。

野外活動では、みんなで地域の観光名所を訪れる

ながることで、問題の予防や課題解決につながることもあります。

一方、学校の教員たちからも、児童館があることによって保護者との関係もうまく保つことができるとの評価をいただいております。児童館が地域にとって必要な場でありたいと願っている私たちにとっては、とてもうれしい反響です。

課題を抱えている子どもは、年々増加しているように感じます。小学2年生で、死にたいと漏らす子どももいます。こうした子どもたちの人権を守るためにも、児童館が保護者や教員、専門職の方々のパイプ役になることが求められています。

子どもたちを中心とした地域住民にとっての、「安らげる居場所」としての役割はもちろんですが、子どもにかかわる地域課題の解決を図っていくことは、児童館が地域に開かれた施設として機能することを標榜していることから、大事な役割です。

「地域の再生」のために、 さまざまな「つながりづくり」をめざして

やましたさとみ
山下里美さん
徳力南児童館 児童厚生員

私たちが児童館を運営していくなかで、利用者からは「困った時は児童館に行けば、何らかの解決策が見つかるので、とても助かる」との声をよく聞きます。

行政などの公の相談機関に行くほどのことではなくても、保護者の方が、気楽な気持ちで児童館に来ることによって出会いが生まれ、ちょっとした会話や相談をきっかけとして、学校や他の機関へつ